



宮崎 淳



中嶋 莞爾



丹下 紘希



吉田 光希



矢口 史靖



中田 彩郁



豊永 利明



浅葉 克己



屋間 行雄



譚訪 敦彦



山村 浩二



SO+ZO映像祭 2011



沼口 雅徳



犬童 一心

2011年1月29日[土]
- 2月11日[金]

各日 21:00 - 23:00
入場料金：800円 均一



川部良太



大山 慶



筒井 武文



たむらしげる



坂元 友介



辻 直之



鈴木 卓爾



IKIF



うるまですび



藤田 篤真



李 東勳

会場：渋谷 **ユ-ospace**

主催：学校法人桑沢学園

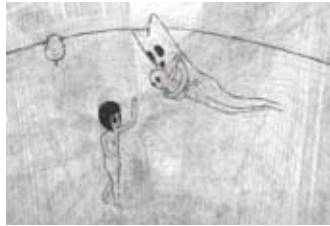
2011.1.29 [土]

造形アニメーション 新進作家作品集

ゲストによるティーチインあり

辻直之

アーティスト・アニメーター。1972年静岡県静岡市生まれ。神奈川県在住。マンガやテレビアニメを愛するひねくれものとして幼少年期をおくる。東京造形大学で実験アニメ、実験映画の洗礼を受ける。以後、木炭画の短編アニメを中心に制作。近年は定期上映会「かわなかのぶひろ 映像の地下水脈」のチラシ制作も担当。



『風の精』◎2009 / 16mm / 6分

空の高いところを吹く風、「風の精」。彼は山あいの小さな丘で遊ぶ母親と赤ん坊を見つけて、舞い降りた。風の精は挨拶して母親から赤ん坊を預かる。彼は赤ん坊を抱いて天高く飛び上がり、空の世界の小さな冒険をはじめる。雲を沢山突き抜け、雲の上の公園で遊んで…。木炭画アニメ、ベースギターサウンド。鴻池朋子さんのアニメ作品「mimio-The last day of winter」(1998年)に刺激をうけて作りました。音響・音楽、作曲・演奏：高梨麻紀子。

● その他の上映作品

『夜の錠』

◎1995/8mm (16mm上映) / 6分

沼口雅徳

1979年埼玉県なんべい地区生まれ。東京造形大学絵画専攻卒。大学在学中から人形アニメーションを制作。中でも「押絵と旅する男」(プラネット映画祭ノミネート)、と「浅草キケン野郎～泣くな！恋の鉄砲玉～」(TBS ザ・デジコン5 最優秀賞受賞)は反響が大きく、「浅草キケン野郎～泣くな！恋の鉄砲玉～」はopenArtの提供でshort film selectionとしてDVD化され、現在も販売中。卒業後 IKIF+にて劇場アニメーション制作に参加、フリーとしてTBS news23の金曜深夜便オープニングタイトルを作成。2005年株式会社白組に就職。3DCGを使ったTVアニメーション、ゲーム、CM、映画に関わるプロジェクトに所属。NHK 放送「うっかりベネロベ」(文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞受賞)、フジテレビ放送「もやしもん」、任天堂 wii「スマッシュブラザーズ X」等にCGアニメーターとして携わる。傍らで、自主制作も続けている。最新の自主制作では、初の実写映画に挑戦。

*ゲストおよび上映作品は
変更になる場合があります



『押絵と旅する男』

zvzz ◎2001 / 11分

人形アニメーション。これは生きているでしょう？ 絵の住人になってしまった兄の話を知りたいとはおぼしめしませんか？ 江戸川乱歩原作。浅草十二階を舞台に繰り広げられる、幻想怪奇談。

『ΤΟΙΧΟΣ』◎2009 / 3分

3分クレイアニメーション。ユートピアを目指して、最後の壁を乗り越える！。芹沢良克監督映画「これでおしまい」の劇中使用作品として制作。ΤΟΙΧΟΣ (トイコス) はギリシャ語で「壁」という意味。

中田彩都

1983年埼玉県出身。東京造形大学造形学部デザイン学科アニメーション専攻卒業。現在はCM アニメーション制作会社に就職し、TVCM と短編アニメーションを中心に活動している。「コルネリス」が東京国際アニメフェア2009公募部門特別賞、HeArt 2008 長崎水辺の映像祭ゴールドドラゴン賞受賞。代表作は他に『舌打ち鳥が鳴いた日』『おばあちゃんの作業部屋』など。

【中田彩都公式ホームページ】

<http://ayakanakata.net/>。



『コルネリス』

◎2008 / DV / 3分25秒

画面の中に人物がいて、その後ろに無地の背景が広がっている。どこが床で、どこが天井なのか、それとも空中なのか、広いのか狭いのか、それを決めるのは作者自身であり、観客自身である。またアニメーションにおいては「その人物」という肉体の枠もすり抜ける事ができ、存在は不安定でそして自由である。それがアニメーションの面白さではないかと考え、作った作品。

● その他の上映作品

『おばあちゃんの作業部屋』

◎2005 / DV / 2分54秒

大山慶

1978年東京生まれ。2001年イメージフォーラム映像研究所卒業。2005年東京造形大学卒業。卒業制作として制作した『診察室』がカンヌ国際映画祭監督週間へ選出。2006年オムニバスアニメーション映画「TokyoLoop」に参加。2007年東京造形大学大学院修士課程修了。2008年愛知芸術文化センターオリジナル映像作品として『HANDSOAP』を制作。2010年映画『ゲゲゲの女房』の劇中アニメーションを担当。現在、文化庁新進芸術家海外研修制度によ

り、バンクーバーに滞在中。



『HAND SOAP』

◎2008 / DV / 16分

思春期の少年とその家族を静かに描いた作品。クローズアップ写真のコラージュという手法を使うことで、独特の質感を生み出し、そのグロテスクで繊細な描写により、思春期という時間そのものを表現している。オランダ国際アニメーション映画祭グランプリ、アニメテッドドリームグランプリ、イマジナリア映画祭最優秀短編アニメーション賞、オーバーハウゼン国際短編映画祭映画祭賞、広島国際アニメーション映画祭優秀賞、他受賞。

● その他の上映作品

『診察室』◎2005 / DV / 7分

坂元友介

1985年栃木県出身。東京造形大学、同大学院を経て、現在(株)東北新社に勤務。中島信也に師事。主な受賞歴に、2004年デジスタアワード2004映像部門グランプリ、2006年 第二回吉祥寺アニメーション映画祭グランプリ、2008年 第30回東京ビデオフェスティバル優秀作品賞などがある。



『Confeito』◎2010 / HDV / 7分

楽しいはずのデートがいつしか別れの儀式の始まり。愛の終わる時間をアニメーションにしました。

● その他の上映作品

『電信柱のお母さん』

◎2005 / DV / 10分

李東勲 (イドンフン)

韓国出身。2009年東京造形大学院修了2009年_ASK? 映像祭入選「くじびき」2010年_吉祥寺アニメーション映画祭審査員特別賞「夢の案内人」



『夢の案内人』

◎2010 / DV / 9分40秒

子供の時、迷子になった夢をみて、泣きながら目を覚ましたことがあります。目を覚ましたら(呪術にかかったように)詳しい内容は忘れましたが、二度と戻れなくなるのではないかと恐怖感だけははっきりと覚えています。夢は魂の旅とも言われていますが、もし夢の世界に残されること

になったらその後はどうなるのでしょうか。私はもう泣き虫の子供ではありませんが、いまだによく道を迷うので少し心配です。2010年吉祥寺アニメーション映画祭審査員特別賞受賞。

● その他の上映作品

『くじびき』◎2009 / DV / 5分37秒

2011.1.30 [日]

中嶋莞爾氏によるティーチインあり

中嶋莞爾

1970年生まれ。東京造形大学卒業後、数々の映画を自主製作。第一作『はがね』(94)はボルトガル国際映画祭新人監督賞、パリユネスコ芸術 / 教育国際映画祭グランプリなど受賞。続く『箱-The BOX-』(02)もトリノ国際映画祭特別奨励賞受賞と海外での評価も高い。初の劇場公開作品となる本作のオリジナル脚本は、2006年サンダンスNHK国際映像作家賞を受賞。完成作品もサンダンス映画祭2009のワールドコンペに正式招待され、好評を博した。



『クローンは故郷をめざす』

◎2008 / 35mm / 110分

殉職した宇宙飛行士の耕平は、合法的クローンとして蘇る。だが再生された彼は記憶障害を起こし、少年期のままの行動を取り始める。耕平には、かつて自分の犠牲となって死んだ双子の弟がいた…。クローンの耕平は自らの死体をかつての弟の姿と錯覚し、繰り返される悲劇の中で困惑する…。静かで厚重な映像美によって、クローン技術がもたらす生と死の矛盾を、家族愛の物語の中に描き出した意欲作。出演に及川光博、永作博美、石田えり。

2011.1.31 [月]

矢口史靖

映画監督。PFF スカラシップ作品「裸足のピクニック」(1993年)で劇場監督デビュー。『ひみつの花園』(1997年)、『アドレナリンドライブ』(1999年)に続き監督した『ウォーターボーイズ』(2001年)が大ヒット。その後『スウィングガールズ』(2004年)、『ハッピーフライト』とヒット作を続けている。他に鈴木卓爾との共同監督『バルコ フィクション』(2002年)、自主制作ビデオ短編集『ワンピース』(1994年-)などがある。



『雨女』◎1990 / 8mm (DV上映) / 72分

降りしきる雨の中、他人の迷惑をかえりみず暴走する二人の女。生きる為には畑を荒らし、コンビニを襲い、牛をも倒す。雨が降る限り続く二人の奇妙な共同生活は、晴れた時どうなってしまうのか…? この作品で PFF アワード 90 のグランプリに輝き、続いて PFF スカラシップを獲得することとなる。大学在学中の二年半をこの作品の為に費やしたという、矢口史靖自主映画時代の代表作。

2011.2.1 [火]

鈴木卓爾氏によるティーチインあり

鈴木卓爾

67 年静岡県生まれ。高校時代より 8mm フィルムでアニメーションや、実写映画を制作。8mm「にじ」(87) が、PFF88 で審査員特別賞を受賞。東京造形大映画研究会で出会った矢口史靖監督の「裸足のピクニック」に脚本監督補で参加後、ドラマ映画を目指す。脚本パート、俳優パートとしても活動中。劇場用長編初監督作「私は猫ストーリー」が 09 年に公開される。最新監督作は、2010 年冬公開の「ゲゲゲの女房」。



© 1987 / 8mm (DVD 上映) / 70 分
1987 年の 1 月から 8 月、実家の静岡県磐田市と大学の在った八王子を、往復するように撮影されたパーソナルドキュメンタリー形式の映画です。シナリオはなく、撮影した後に次の展開を考えるという形式で、自分の顔にカメラを向け、そのとき思いついたナレーションを同時録音で記録、撮影順にしかフィルムを繋げてはいけない、というのを本作での、ゲームの規則としました。そういった中から立ち上がるフィクション性とドキュメンタリー性が、映画の強度足り得るかの試行錯誤の過程です。青春映画です。

2011.2.2 [水]

吉田光希氏、川部良太氏による
ティーチインあり

吉田光希

2006 年度東京造形大学卒業。大学在学中より塚本晋也監督作品を中心に映画製作現場に参加。美術助手、照明助手、助監督などで現場へ関わり、大学卒業後はフリー助監督や製作プロダクションにて CM や PV の制作をする傍ら、卒業制作の『症例 X』(監督脚本) で 2008 年にあひフィルムフェスティバル (PFF) にて審査員特別賞を受賞。同作は引き続き、第 61 回ロカルノ国際映画祭での新鋭監督コンペティション部門への入選をはじめ、ウィーン国際映画祭、メキシコ市国際近代映画祭、プエノスアイレス国際インディペンデント映画祭などに招待される。第 20 回 PFF スカラシップの権

利を獲得し、劇場デビュー長篇となる『家族 X』(監督脚本編集) が公開待機中。



『サイレンス』© 2005 / DV / 32 分

映画「サイレンス」は、面識の無い他者を集め、コミュニケーションを取らせようと試みます。積極的な関わりを避けようとする各人の意識を表出させて、フィクションとノンフィクションの境界を探ろうとしました。傷つけ合わないように、他人のところに深く干渉しない現代特有のやさしさ。探らないこと、踏み入らないこと、近づかないこと、想像すること。自分も含めて、同世代の多くが無意識に行っているかもしれない他者との関わり、それでもやさしい人間でありたいという欲求、そんな生々しくも純粋なものを観たいと思いました。

川部良太

2005 年度東京造形大学卒業。大学在学中より、映画から映像インスタレーションまで横断的に映像作品の制作を開始。2008 年のイメージフォーラムシネマテークでの個展をはじめ、第 2 回恵比寿映像祭や、第 13 回京都国際学生映画祭など上映多数。本作「ここに在ることの記憶」は、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2009 アジア千波万波部門で上映されている。近年は「AND」(アンド)と名付けた活動の中で、鑑賞作品としての映画ではなく、関係の生成装置としての映画という概念を軸に、制作活動上映活動ワークショッププロジェクトなども幅広く展開中。



『ここに在ることの記憶』

© 2007 / DV / 28 分

1997 年 5 月、事件が起きたのはある風の強い土曜日だった。希望ヶ丘という名の団地に住む 12 歳の少年が、友達と遊びに行くと言って家を出たままこつ然と姿を消した。それから 10 年が過ぎた現在、かつての少年との記憶が現在の団地の風景の中で住人の言葉によって語られる。この映画は、10 年前の少年との思い出という物語を、実際の郊外の団地に住む人々が朗読するという形で進行する。失われてゆく風景の中で、存在しない架空の少年の記憶を辿ること。「そこに人がいる」ということの記録と、「そこに人がいない」ということの記憶。

2011.2.3 [木]

桑沢アニメーション

うるまでるび両氏ほかゲストによる
ティーチインあり

たむらしげる

1949 年東京生まれ。イラストレーター、絵本作家、漫画家、映像作家。画集「メタフィジカル・ナイツ」で小学館絵画賞、映像作品「銀河の魚」(アニプレックス) で毎日映画コンクール大藤信朗賞、「くじらの跳躍」(バンダイビジュアル) で文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞、CD-ROM「アミューズメント・プラネット・ファンタスマゴリア (愛があれば大丈夫)」で AMD アワード・グランプリ郵政大臣賞など。



『クジラの跳躍』© 1998 / 35mm / 23 分
最初は漫画、そして絵本、映像へと発展した詩的な作品です。極端に遅い時間の流れの中で海はガラスに変質して、飛沫はガラス玉となって宙に浮く。そんなガラスの海の上に人が生活していて、半日かけて跳躍するクジラ見物に集い、それぞれの思い出を語る。クジラは人々の心に美しい思い出を残して海の中に消えて行く。日常のほんの一瞬に出現した例えようもない美しい光景。子供の頃に見た一瞬の思い出が今でも目に焼き付いている。

うるまでるび

「おしりかじり虫」を大ヒットさせた、「うるま」と「でるび」のアーティストユニット。おしりかじり虫のほか、「しかと」(ウゴウゴルーガー)、「カプセル侍」(NHK 教育えいごリアン) などのキャラクター制作、アニメーションで知られるほか、音楽制作、ソフトウェアデザインなど、ジャンルを超えた作品作りを続けています。



『おしりかじり虫』

© 2007 / Paint CG / 2 分 20 秒

社会現象となった「おしりかじり虫」。CD 売り上げ 25 万枚、着うたダウンロード 100 万、グッズ 300 種を記録し、年末には紅白歌合戦にも出場した。(原作、監督、アニメーション、作詞、作曲をうるまでるびが制作)



『(a long day of) Mr.Calpaccio』

© 2005 / Paint CG / 7 分 26 秒

うるまでるび自主制作アニメーション。現

代生活をモチーフに「動くグラフィックアート」を目指して制作。シカゴで特賞を受賞したほか、世界 50 カ国以上のフィルムフェスティバルに入選する。白黒作品。(原作、監督、アニメーションをうるまでるびが制作)

藤田篤真

1988 年神奈川県生まれ。07 年桑沢デザイン研究所、入学。08 年「使用人」、制作。09 年「サイ頭くん」、「another skin」、制作。10 年「サララップアニメーション」、制作。11 年、株式会社バラカロ、デザイナー。



『サララップアニメーション』

© 2010 / DV / 3 分 21 秒

「サララップアニメーション」は、サララップを透過した光を撮影した映像作品です。サララップはとても長いものです。そこに透明水彩絵具で 13m の背景を描き、スライドしていきます。人間のシルエットが歩いていくアニメーションで、プロジェクターでサララップに上映すると、透き通る背景の中を登場人物が歩き出します。サララップで作られたアニメーションは、きっとこれが初めてです。

● その他の上映作品

『サイ頭くん』© 2009 / DV / 5 分 45 秒

2011.2.4 [金]

丹下紘希氏、豊永利明氏による
ティーチインあり

丹下紘希

映像監督 / アートディレクター。MVPA 音楽映像製作者協会理事長。高校卒業後、大野一雄氏に師事。現在まで数多くの Music Video を作り続け、MTV、スペースシャワー TV にて BEST DIRECTOR 賞はじめ受賞歴多数。Mr.Children から大野一雄まで約 40 本の作品を収録した監督作品集「TANGE KOUKI VIDEOCOLLECTION」(トイズファクトリー) が発売された。

『稚児姿幽風の月』

© 1993 / 16mm / 28 分

日本には古来より「幽玄」という曖昧な世界が存在する。「生」と「死」の境界線も曖昧であれば「子供」と「年寄り」には「性」の境界線も曖昧であり、「自己」と「他者」の境界線も曖昧である。飽食の時代である現代においても人は死の直前にそれらの境界線がない世界に遊び、一つになっていく。

● その他の上映作品



『座標染色隊 xyz』

© 2010 / HD カム / 2分1秒

『action universe』

© 2008 / デジタルβカム / 4分7秒

『LIFE』

© 2007 / デジタルβカム / 6分33秒

豊永利明

桑沢デザイン研究所卒業。サントリー、HONDA、JR 東日本、SCE、資生堂などのCM、東芝 EMI「松田亮治」PVなどを担当。今年2月に劇場短編映画「Chocolate」を公開。大手の出資を受けず、自主制作による初監督作品だったこと、また、病気で休業していた永瀬正敏の復帰作として話題になった。現在、アパッチ、ショートムービー「アバチャン」制作進行中。



『Chocolate』

© 2008 / DV / 6分33秒

チョコレート職人、利明（永瀬正敏）は、最近自分の店をつぶしたばかり。そのふがいなさを引きずったまま、あえて妻みこ（宮本裕子）や、娘のあゆみと別々に暮らすことを選択する。友人の空き部屋に身を寄せ、世間から隠れるように日々を過ごす。あゆみは、父に買ってもらった自分の服を母がペランダに干さないことや、自分が寝た後、壁に耳を当てているのを不思議に思っている。実はみこが借りたのは、利明の隣の部屋だったのだ。

2011.2.5 [土]

緊急講座

「元祖 教育とアニメーション それは造形大アニメ研から始まった」

「東京造形大学アニメーション研究会 & アニメーション 80 を考える」

1980年代に東京造形大学のアニメーション研究会で作品を発表し、その後、アニメーション80などの自主制作、自主上映団体を組織して自身の作品制作を行っていたメンバーの、その多くが、現在、アニメーションの教育に直接携わっている。それはたして偶然なのか。いや、当時からその萌芽は存在したはずで、他（「えびせん」「地球クラブ」等）ではそのような現象は希薄であると思われる。とすれば、東京造形大学のアニメーション研究会、そしてその後のアニメーション80の理念などと、現在の教育とアニメーションの考えがリンクする要因があるのではないかと。そして、現在のAIAFなどまでを含めるとその原動力は確実に1980年代的なパワーが影響していると言えるのではないかと。1980年から30年、一つのサイクルが回り、作り手が教え手になり、新しい制作者を誕生させている現在の状況をいまこそ総括する!!



『流転軌道』 © 1984 / 20分

デザイン学科・映像専攻の卒業制作作品。フィルムの再撮影、合成装置等を作成して8ミリフィルムでの画面合成、アニメーション合成などの特殊効果を用いた幻想物語。国内では1984年にユーロスペースで、海外ではスウェーデンの映画祭「Film Festival-NEW MEDIA 2 1985」で公開。今回の上映は、ランクシネテルでテレシネレデジタルリマスター処理を施したバージョン。

参加作家

昼間行雄、IKIF、石田純章、田辺幸夫ほか（参考上映含む）

2011.2.6 [日]

浅葉克己スペシャルナイト

浅葉克己氏、内田繁氏によるトークあり

浅葉克己

アートディレクター。1940年神奈川県生まれ。桑沢デザイン研究所、ライトパブリシティを経て、75年浅葉克己デザイン室を設立。サントリー、西武百貨店、ミサワホーム等数々の広告を手がける。日宣美特選、日本宣伝賞、東京ADC賞グランプリ、紫綬褒章など受賞多数。東京ADC委員、東京TDC理事長、JAGDA理事、AGI（国際グラフィック連盟）日本代表、東京造形大学・京都精華大学客員教授。中国の象形文字「トンバ文字」に造詣が深い。卓球六段。



『再生・再創造』その先に、何が見えるか。』

© 2010 / HD カム / 25分20秒

世界を代表するデザイナーのひとり、三宅一生。彼が発表した新シリーズ「1325. ISSEY MIYAKE」には、ものづくりへの様々な思いがこめられている。21世紀文明に対する警鐘、経済効率性が優先されることへの危機感…社会が抱える問題をデザインで解決する積極的な試みなのだ。その思いや製作プロセスを映像化する依頼を受け、番組制作会社テムジンと協力して作ったドキュメンタリー。ディレクターは、NHK番組を主に手掛ける米本直樹が担当した。

[この作品はCOFESTA PAO（経済産業

省）の支援のもとに制作されたものです。]

『浅葉克己ディレクションCF集』

浅葉克己ディレクションによる一連のCFをコンセプトや撮影秘話などを含め、軽快なトークで紹介していきます。

2011.2.7 [月]

諏訪敦彦氏によるティーチインあり

諏訪敦彦

1979年、東京造形大学入学。卒業後、テレビドキュメンタリーの演出等を経て、96年に長編劇映画「2/デュオ」を監督。99年「M/OTHER」（カンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞受賞）。01年「H/Story」（カンヌ国際映画祭正式招待）。05年「不完全なふたり」（ロカルノ国際映画祭審査員特別賞、国際芸術映画評論連盟賞受賞）を発表。09年「ユキとヒナ」をカンヌ国際映画祭監督週間にて発表。2008年東京造形大学学長に就任。



『はなされる GANG』

© 1985 / 8mm (DVD 上映) / 85分
冒頭、「はなされる GANG」という字幕で、2人の役者、加村と理恵がこれから始まる物語について語り始める。そして耳の聞こえないギャング、加村と、文庫本を読む少女、理恵の逃走劇が展開されてゆく。シーン毎に、撮影された日付が記され、ほぼ順撮りで、一筆描きのようにして撮られたこの作品は、フィルムの虚構性のウラをかいて、映画の本質に迫ろうとする。

2011.2.8 [火]

筒井武文氏によるティーチインあり

筒井武文

映画監督。東京藝術大学大学院映像研究科教授。東京造形大学在学中に、『レディメイド』（82）を撮る。卒業後は、フリー助監督、編集として活動。87年『ゆめこの大冒険』劇場公開。その後の映画作品に、『学習図鑑』（87）、3D『アリス インワンダーランド』（88）、『オーバードライブ』（04）、『孤独な惑星』（10）、ドキュメンタリー『バツハの肖像』（10）などがある。



『ゆめこの大冒険』

© 1986 / 16mm / 70分

モノクロサイレント映画の形式を使い、映画史的な引用を盛り込んだスラップス

ティック喜劇。奥方と宝石泥棒の二役をかとうゆめこが演じる。すずきやすし演じる謎の男、旦那、医者、詩人、小間使いが宝石をめぐる追いかけあい、また奥方をめぐる恋の鞘当を繰り広げる。全篇にわたって、コマ数を変えられ（8コマから、72コマ）、さまざまな映画の実験が試みられ、最後は気球による世界一周のシーンへと至る。

2011.2.9 [水]

宮崎淳氏によるティーチインあり

宮崎淳

東京造形大学の卒業制作「RingAndroid」（87）が、イメージフォーラムフェスティバル88でグランプリを受賞。卒業後は4年間グラフィックデザイン事務所に勤務する傍ら、年に1本のペースで実験映画を作り続ける。その後フリーの映像作家となり、「ビジネス上の商品としての映像」と、「個人の自由な表現としての映像」の両面から映像制作に関わる。2004年、「FRONTIER」が第57回カンヌ国際映画祭監督週間にて“若い視点賞”（Prix Regards Jeunes）を受賞。



『FRONTIER』

© 2003 / 16mm / 70分

これは団地を写した作品である。団地とは、かつてフロンティアであった。そして、当時夢見た未来をどっくに追い越してしまっただけでもなく、それはそこにある。撮影には時間をかけた。急がない、と心に誓ったからである。急いでいては見落としてしまう。団地とはその図体に似合わず、目に見えにくいものである。ここでは時間が止まっている。時の止まった場所に吹く風の様な作品が、作りたかったのである。

● その他の上映作品

『Ring Android』

© 1988/8mm/45分

『FROZEN DREAM』

© 2001/ デジタルβカム / 6分

『BORDER LAND』

© 1999/16mm/15分

裏面へ続く



2011.2.10 [木]

犬童一心

1960年生まれ。高校時代より自主映画製作を始め、長編映画デビュー作となる「二人が喋ってる。」(95年)が、サンダンスフィルムフェスティバルIN 東京 96でグランプリ、日本映画監督協会新人賞を受賞する。2003年には「ジョゼと虎と魚たち」で第54回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。以後、「メゾンドヒミコ」(05年)で、文部科学大臣賞、「眉山」(07年)、「ゼロの焦点」(09年)では、日本アカデミー賞優秀作品賞監督賞を受賞している。

『赤すいか黄すいか』

◎1982 / 16mm (VHS 上映) / 42分
大島弓子の傑作短篇漫画を映画化した82年作品。重い生理を苦しむ、手術でそれを止めようとした女子高生の姿を描く。



『二人が喋ってる。』

◎1995 / 16mm / 67分
女性漫才師二人の青春を大阪を舞台に描く。舞台から街へ、いらだち、不安、希望、喋り続ける二人の姿がダイナミックに描く。映画監督協会新人賞受賞作品。

2011.2.11 [金]

造形アニメーション 山村浩二 IKIF 作品集

IKIF, 山村浩二氏 (予定) による
ティーチインあり

山村浩二

1964年生まれ。東京造形大学絵画科卒業。「頭山」がアヌシー、ザグレフ、広島をはじめ6つのグランプリを受賞、第75回アカデミー賞にノミネートされる。また「カフカ田舎医者」がオタワ、シュトゥットガルト、広島など7つのグランプリを受賞。国際的な受賞は60を越える。国際アニメーションフィルム協会日本支部理事、日本アニメーション協会副会長、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授。



『頭山』◎2002 / 35mm / 10分
ケチな男がサクランボの種を食べたために、頭に桜が生えて、トラブルに巻き込まれる。落語「あたま山」を現代、東京に舞台を移し、アニメーションで新解釈を試みた作品。語り、三味線：国本武春。

第75回アカデミー賞ノミネート、アヌシー2003グランプリ、第16回ザグレフ国際アニメーション映画祭グランプリ、第10回広島国際アニメーションフェスティバル グランプリ、第15回ドレステン国際アニメーション&短編映画祭グランプリ他受賞。

●その他の上映作品

『博物誌』、『水棲』、『カロとビョブトあめのひ』、『年をとった鰐』、『Fig』、『こどもの形而上学』

IKIF

1979年東京造形大学在学中に石田圓子(ヴィジュアルデザイン)と木船徳光(絵画)でIKIF(アイケイアイエフ)というユニットを組み、8ミリ、16ミリフィルムによる実験アニメーションの制作を始める。様々な素材や技法を用いた実験アニメーションや映像インスタレーション等を作り続ける。80年代終盤パソコン上で制作した幼児向けアニメーションや、タイトルCG、商業アニメーション(OVA、ゲームオープニングアニメーション、劇場用アニメーション)の制作を担当し、業務としてアニメーションに関わる比率が増したため、1997年よりIKIF+ (アイケイアイエフプラス)という会社組織を発足させる。東京造形大学と東京工芸大学でアニメーション教育に携わっている。



『阿耳曼陀羅 (二)』

◎1986 / 16mm / 5分20秒
曼荼羅に類するものと西洋寺院のステンドグラスと十二支のモチーフをおどろき盤のシステムを使って、透過光でコマ撮りし作品化したもの。イメージフォーラムの企画で知り合った谷川賢作さんの音楽をスポッティングし、音とシンクロさせることを試みた。石田父の知人が持っていたミッチェルという特撮にも使われる、多重露光が正確にできる16ミリカメラを借りて制作した。曼荼羅はライフワークの一つになっているようだ。

●その他の上映作品

『アニメーション百科』、『CIRCLE』、『走馬燈 (一)』、『回転AB』、『SCRIBBLE BORD 砂鉄編』、『スクリーン・トーン・ミュージック』、『立喰師列伝メイキングより』、『アニメーション百科デジタル』、『トルロミニカ / Troreminica』、『くるくる絵本』

*ゲストおよび上映作品は
変更になる場合があります

「SO + ZO」とは何か？

東京造形大学学長 映画監督

諏訪敦彦

ここに集まった作家たちや作品のラインナップを見て、そこに一体どのようなつながりがあるのかをすぐに理解する人はないであろう。「SO + ZO」という、一見意味不明な記号は、桑沢デザイン研究所の桑=SOと東京造形大学の造=ZOをとって作られた言葉である。デザイナー桑澤洋子が創立した両校は、これまで数多くのデザイナーや芸術家たちを輩出してきたが、その卒業生の中で主に映像分野で活躍する作家たちの作品を集めた初のプログラムが「SO + ZO 映像祭」である。20世紀は映像の世紀と言われ、現在ではさまざまな教育機関で「映像」という名の授業が展開されているが、日本で初めて「映像」という言葉を科目として使用し実践したのは東京造形大学であった。桑沢デザイン研究所ではデザインの基礎として「写真」が重要な科目であったし、絵画や家具や彫刻を専門とする学生が領域を超えて映像制作において成果を発揮することもあった。専門に閉じこもらない桑沢洋子の自由な教育理念がそこに現れているだろう。ここに並ぶ作家たちの名前を見ると、劇映画からアニメーション、実験映画、MTVや広告などさまざまな方面で活躍する人々である。今回の上映作品は各作家の代表作ではなく、学生時代の作品など現在DVDなどでなかなか見ることの出来ない作品を中心に選んだ。「映像」を幅広く捉え、自由な発想で挑戦的な教育を実践してきた「SO + ZO」の軌跡が垣間見えるのではないだろうか。

桑澤洋子生誕100年記念事業 「SO + ZO MOVEMENT」



今年は、専門学校桑沢デザイン研究所並びに東京造形大学の創立者である桑澤洋子の生誕100年にあたります。

本年を契機として、両教育機関を運営する学校法人桑沢学園では、桑澤を中心とする先人達によって開設された革新的デザイン教育・造形教育を掲げた両教育機関の教育成果を、さまざまな角度から検証し、今後進むべき方向性を確認するとともに、両教育機関が単なる姉妹校に止まらず、両者の相乗効果を創出するための協同関係を構築することを目指した運動を行います。

この運動の名称としては、桑沢デザイン研究所の桑（SO）と造形大学の造（ZO）の総和を意味する「SO+ZO MOVEMENT」としています。また、この運動のシンボルとなるロゴマークは、東京造形大学のシンボルマークを作成した勝井三雄氏のデザインによるものです。

www.kuwasawa.ac.jp/sozo/

SO + ZO 映像祭

東京造形大学と桑沢デザイン研究所では、これまで数多くのデザイナー、アーティストを輩出してきましたが、その卒業生のなかで映画、映像、アニメーション、広告映像など幅広い映像分野で活躍する作家たちの映像作品を一挙に紹介する映像祭を行います。普段なかなか上映される事のない学生時代の作品や秘蔵作品を中心に、ベテラン若手を取り混ぜた多彩なプログラムが組まれています。現在の映像表現のひろがりを経史的に振り返るとともに、新しい時代の映像表現の可能性を展望したいと思います。

2011年1月29日 [土] - 2月11日 [金]

各日 21:00 - 23:00

入場料金：800円 均一

●リピーター割引あり！

半券ご提示で二回目から

600円でご覧いただけます。

●ご覧になれる方

当日ユーロスペースの窓口にて整理券をお配りいたします。

●お問い合わせ

渋谷ユーロスペース

Tel : 03-3461-0211

<http://www.eurospace.co.jp/index.html>

学校法人桑沢学園事務局

Tel : 042-637-8438

e-mail : sozo@kuwasawa.ac.jp



渋谷ユーロスペース

渋谷区円山町 1-5 (渋谷・文化村前交差点左折)